



「やる気と継続する」 ～スモールステップの学習原理を参考にして～

スキナーという学者は、プログラム学習の研究で、「スモールステップ」の原理を考察した。アメリカの南部の農村地帯に新設されたミシン工場で行った実験結果による。見習い工員を2つのグループに分け、一方には14週目に到達してほしい熟練工たちの高いレベルの最終目標だけしか示さなかった。もう一方のグループには、最終目標の水準を見せるとともに、さらに1週間ごとの下位目標(サブゴール)を定めた。結果は、後者の「スモールステップ」の原理、つまり、細分化された目標を付加したグループの方が、好成績をあげたという。

このことから、受験に向かう到達度を考察してみると、最終目標としての高いハードルを掲げて譲らないことは前提として、例えば、1週間ごとの低いハードルを設定すること。このことが、モチベーションの継続にもつながるだろうということ。ペース配分も考慮すると、人間は一層力を発揮する、ということではないかと考えます。

なお、この原理は、プログラム学習の系統として、「積極的反応の原理」、「即時確認の原理」、「スモールステップの原理」、「自己ベースの原理」、「学習者検証の原理」の中の1つです。

以下に、簡略な表を挙げましたので、参考にし記入した上で、やる気を継続してほしい。

【最終目標】

	*例：〇〇大学合格
--	-----------

【6月の目標】(6月を例として)

	*例：苦手分野克服
--	-----------

【週単位の具体的な目標】(スモールステップの原理からも、1週間単位は効果ありとみます。)

6月第1週目	*例：分詞の復習
6月第2週目	*例：関係副詞の復習
6月第3週目	*例：助動詞の復習
6月最終週まで	*例：仮定法過去の復習

小論文ワンポイントアドバイス : 「バランス感覚」

言葉の揚げ足取りではなく、差別的な用語を見逃さない感覚が大切。例えば、身体の一部を取り上げる表現。「視野を広げる」といっても、視野に関わる目の症例もある。手足を用いた表現にも留意すべきだ。

「逆」という言葉も要注意だ。「真逆」などと言ってはばからない人の見識を疑ってしまう。本当に逆の性質を含んだ事例があるのか、と。

「逆差別」という言葉もそうだ。真実は「やむを得ない、ねたみなどによる反抗、反撃」といえるかもしれないからだ。

一つの事例を上げる際、固有名詞の扱いも慎重にすべきだ。〇〇新聞だけを取り上げる意図。他の新聞もあるはず。様々な立場の人、利害が注視していることを忘れてはならないと思う。



以前、これらのことに「心したい」と述べた筆者に苦言を呈した校長先生がおられた。私自身は「注意して言葉を発したい」という意味で用いたのだが、校長先生は「表面上だけ注意するのではいけない。本質的な把握をせよ。」と諭されたかったのだろうと、今になってみてわかる。

再度、「学習力」アップに努めていますか? : 「学習力アップシート」大いに活用を!!